

コード	402030601
記入日	H21.6.8

## 事務事業途中評価表

課コード	115
課名	農林課
課長名	田本耕一
担当者	水本清敏

作成年度	平成 21 年度
------	----------

評価対象事業名称	有害鳥獣防除推進対策事業
----------	--------------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 20 年度 ~ 平成 20 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	4	政策名称	自立する産業の育成、雇用の確保	款コード	6
施策コード	402	施策名称	農林業の振興	項コード	1
基本事業コード	40203	基本事業名称	農業生産性の向上	目コード	3
事務事業コード	4020306	事務事業名称	有害鳥獣駆除推進対策事業費	細目コード	885
関連計画	法令・条例規則等 新上五島町農業振興奨励事業交付要綱				

**計画 (PLAN)** ※単年度繰返事業については、全体欄を\*\*\*\*\*とする。

対象: 誰、何を対象にしているのか		対象指標: 対象の大きさを表す指標				
(対象1)	農家	(対象指標1)	502戸			
(対象2)		(対象指標2)				
事業の概要: 具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標: 事務事業の活動量を表す指標・達成率 (上段: 全体、下段: 評価年度)				
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
*****	有害鳥獣の侵入防止策として、電気柵・ワイヤーメッシュを設置した96名に対して2/5助成を行った。	***	***	***	農家への制度周知を随時行った。	*****
①		広報活動	1回	100%		平成20年度
(達成率分析)		町広報誌等に助成制度を記載し農家への周知を図った。また、防除等の相談に対応し、防護柵等の普及を図った。				
②		***	***	***	補助金交付件数÷補助金申請件数	20
(達成率分析)	補助金申請の内容を確認し、27件すべてに交付した。					
目的: 何をしたいのか		成果指標: 目的の達成度を表す指標・達成率 (上段: 全体、下段: 評価年度)				
		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
	有害鳥獣から農作物の被害をなくすため、侵入防護柵の普及を図る。	***	***	***	電気柵等設置数(実績)/電気柵等設置数(計画)	*****
①		電気柵等設置数	96件	100%		平成20年度
(達成率分析)		電気柵及びワイヤーメッシュ柵を推進し、農作物被害の減少を図った。				
②						
(達成率分析)						

**実施 (DO)** ※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		平成19年度以前	平成20年度		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	
活動指標	① 回	3	3	2	1	1					
	② 件	77	77	50	27	27					
成果指標	① 件	141	141	50	96	96					
	②										
総事業費 C (A+B)	千円	9,268	9,268	4,823	4,445	4,445					
直接事業費 A	千円	7,168	7,168	3,423	3,745	3,745					
人件費 B	千円	2,100	2,100	1,400	700	700					
内訳	従事職員数	人	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1				
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円	790	790		790	790				
	起債	千円									
	その他	千円									
一般財源	千円	8,478	8,478	4,823	3,655	3,655					

コード 402030601

**評価(CHECK)** ※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	町が税金を投入して行う必要がありますか。	● ある ● ない	理由	有害鳥獣による農作物被害は深刻であり、防除に対する助成は必要である。
	時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	● ある ● ない	理由	農作物の被害を少なくするために必要である。
	事業の対象・目的は適切ですか。	● 適切 ● 不適切	理由	適切である。
有効性	現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	● いる ● いない	理由	農家の生産意欲を減退させていない。
	成果を向上させる余地はありますか。	● ある ● ない	理由	現制度にて十分である。
	事業を行わない場合の影響はありますか。	● ある ● ない	理由	有害鳥獣の侵入防止策がなく、被害は甚大になる恐れがある。
	類似事業との整理統合はできませんか。	できる ● できない	理由	類似事業がない。
効率性	直接事業費を削減することはできませんか。	できる ● できない	理由	農家の交付申請要望に応えるため。
	人件費を削減することはできませんか。	できる ● できない	理由	現在の人件費を削減することは事業推進上できない。
	受益者負担は適正ですか。	● はい ● いいえ	理由	適正である。

**改善(ACTION)**

改善策	1次評価	妥当性	現在のところ、計画を見直す必要はない。
		有効性	現在のところ、計画を見直す必要はない。
		効率性	現在のところ、計画を見直す必要はない。
	2次評価	妥当性	1次評価のとおり
		有効性	近年の有害鳥獣被害は顕著なものである。被害縮小を図るため捕獲とあわせ、引き続き防除対策を推進していくこと。
		効率性	補助金の支出については、内容を十分審査し適正な執行を行うこと。

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次	
	●	●		このまま事業を継続
				事業内容を見直して事業を継続
				事業費を見直して事業を継続
	1次	2次	3次	
				類似事業と整理統合
				事業の休止
				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。